

「心」の見える化に挑む 心理学科だけの教育研究施設

心理学実験室



どんなにAIが発達しても解明できない「心」の世界。その大きな謎に迫るべく、心理学科の学生や大学院生が日々実験や研究を行っている施設が、第1研究棟地下1階にあります。他学科の学生が立ち入ることができないフロアでどんな学びが展開されているのか、紙上訪問してみましょう!

●お話を聞いた人
社会福祉学部 心理学科長
まじま よしまさ
眞嶋 良全 教授
教育支援課 心理学科 心理学実験準備室
うの ひでき
宇野 英樹さん

Discover 01

「心」への科学的アプローチを 学ぶ「心理学実験」

「心理学実験」は心理学科2年の必修科目のひとつ。心理学の基礎的な実験を実施し、そこから得たデータの分析や考察をレポートにまとめる作業を通じて、科学的な研究手法や心理現象に対する見方を身につけます。このプロセスを繰り返し経験することで、学部の卒業論文や大学院の修士論文などに通じる考え方やスキルを習得することも目的のひとつです。心理学実験では学生自身が実施者あるいは対象者として実験に参加しますが、卒業論文などのデータ収集の際には他学部の学生に呼びかけ、対象者として参加してもらうこともあります。



▲第1実験室：パーティションで部屋を分割できるので、2種の実験を同時進行することも可能です



▲第6実験室：大人数の実験に対応可能。机や椅子を片付けて対人距離を測る実験に使うこともあります

Discover 02

第1研究棟の地下に6つの実験室と 2つの面接室が!

実験法によって心を測定するためには、外的環境をできるだけ均一に保つ必要があります。そのために外部から隔離された空間として用意されているのが「心理学実験室」です。本学の心理学実験室が教員の研究室や総合研究センターがある第1研究棟の地下1階に設置されているのも、一般学生の出入りが少なく統制された環境を維持できるからなのです。心理学実験室には、実験方法や参加者数に応じて大きさの異なる6つの実験室のほか、インタビューやカウンセリングなどに対応できる2つの面接室が設けられています。心理学実験室は心理学科の授業や心理学科生および大学院臨床心理学専攻生の研究で使用されており、一般の利用は受け付けていません。

▶防音室：第5実験室内にあり、音に関する知覚実験などに使用されます



▲カウンセリング室：カウンセリングの様子をマジックミラー越しに観察することも可能な空間です

Discover 03

心理学実験室ではこんな実験をしています

心理学の実験や調査ではさまざまな心のしくみについて探求するために、さまざまな主観・客観的データを収集します。そのために行われる実験は極めて多岐にわたりますが、ごく一部の例をご紹介します。

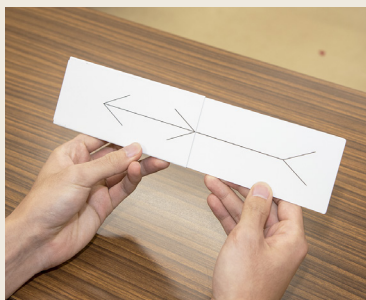
【鏡映描写】

紙に描かれた図形を鏡越しになぞる練習を繰り返し、一度できるようになると体が自然に動くようになる知覚・運動学習を明らかにする実験です。



【ミュラーリヤー錯視】

2本の線は同じ長さですが、両端に内向きと外向きの矢羽を付けると、内向きの矢羽を付けた方が短く見えます。主観的な見え方と実際の物理量の差を数値化することで、感覚と現実のズレや脳のクセなどを調べる実験です。



【香りの認知心理学】

特定の香りを嗅がせたグループと嗅がせなかったグループの認知課題の成績を比較し、香りが認知過程に与える影響を調べます。「レモンの香りは集中力や記憶力を向上させる」「コーヒーの香りは他者への親切行動を促す」という実験結果も。



【箱庭療法】

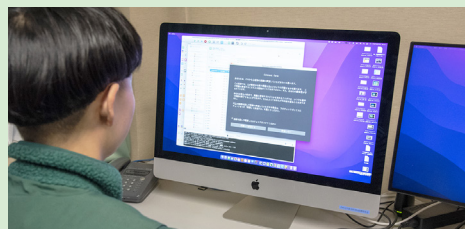
砂が入った箱の中にミニチュア玩具を自由に配置し、ストーリーや世界観を表現してもらうことで、対象者の心理を読み取る心理療法です。



Discover 04

科学的かつ客観的な研究手法を習得することに意義がある！

心理学が扱う「心」は、直接観察したり計測したりすることはできません。そのため、対象が物理的に存在する自然科学とは異なる方法が求められます。実験や調査を通じて見えない心を科学的かつ客観的に検証できる研究方法を身につけることは、心理学を学ぶ学生にとって大きな意義があります。時には自らテーマや手法を考えて実験を実施した結果、適切なデータを得るための実験・調査の難しさに直面することも。そうした経験も、思いつきや想像と科学的根拠を持つ主張との違いを体感する良い機会となるのです。



Discover 05

心理学の知識は社会や家庭でも役に立ちます！

目に見えない「心」へ科学的にアプローチする経験は、社会生活において直感だけに頼らず論理的な思考・判断を行う姿勢を養い、デマやニセ情報、詐欺などに惑わされない強さにもつながることでしょう。健康管理や子育てなどにおいても「なんとなく」ではなく、根拠に基づく適切な対応が行えるようになるかもしれません。問題を把握し、仮説を立ててデータを収集し分析・考察する科学的思考や研究方法は社会的な課題解決においても大いに役立ちます。調査やマーケティングなどの仕事でも武器となるに違いありません。

